

新規事業採択時評価結果(平成28年度新規事業化箇所)

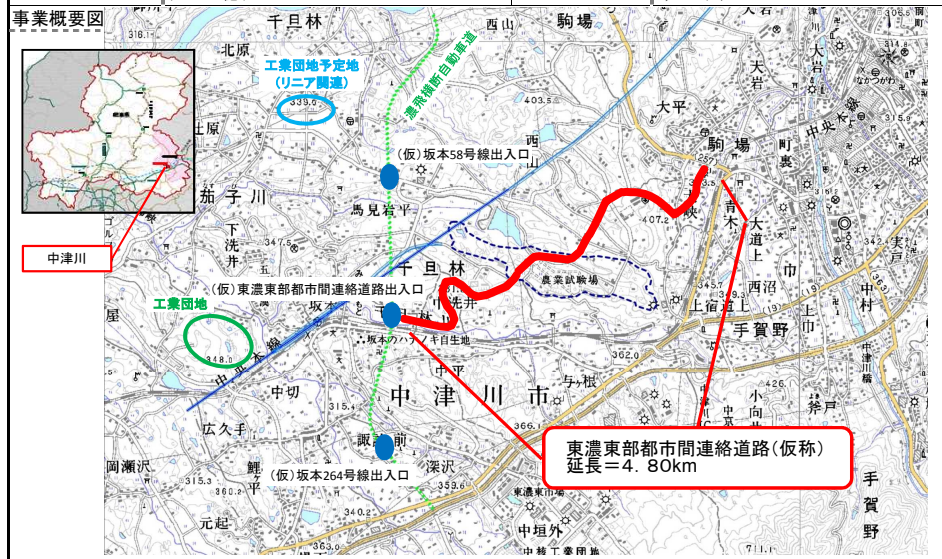
事業の概要

事業名	とうとうぶとしかんれんらびょうろ 東濃東部都市間連絡道路	事業区分	市町村道	事業主体	岐阜県中津川市
起終点	自：岐阜県中津川市駒場 至：岐阜県中津川市千旦林	延長	4.8 km		

**事業概要**  
東濃東部都市間連絡道路は、地域高規格道路である濃飛横断自動車道と結節し、都市拠点間（中津川中心市街地と恵那市街地）を連絡する幹線道路として新規計画。  
この内、濃飛横断自動車道から国道257号までの工区は、主要施設であるリニア岐阜県駅、中津川市民病院、中部総合車両基地等を意識した位置への配置により、産業や観光の活性化や美乃坂本駅周辺の地域防災力向上にも繋がるなど、ストック効果が期待できる。

**事業の目的、必要性**  
「J中央本線美乃坂本駅周辺と中津川中心市街地を連絡する2車線以上の道路網は、安全性や防災性、走行性が十分確保されていない。この道路の整備により、美乃坂本駅周辺における道路ネットワークの多重性が図られ、周辺地域の暮らしの安全・安心が確保される。また、市内幹線道路網が形成され、広域幹線道路・幹線道路の混雑を緩和し、拠点間を多様な手段で円滑に移動することが可能になる。

全体事業費 約4.9億円 計画交通量 3,600台/日



関係する地方公共団体等の意見

学識経験者等の第三者委員会の意見

**事業採択の前提条件**  
費用対便益：便益が費用を上回っている。  
手続きの完了：市道認定（H28.7）予定

事業評価結果

担当課：環境安全課  
担当課長名：菊地 春海

費用対便益	B/C	1.1	総費用 36億円 （事業費：36億円 維持管理費：0.3億円）	総便益 41億円 （走行時間短縮便益：37億円 走行費用減少便益：4億円 交通事故減少便益：0億円）	基準年 平成27年	
	感度分析の結果		交通量変動 B/C= 1.4 (交通量+10%)	B/C= 0.7 (交通量-10%)		
			事業費変動 B/C= 1.0 (事業量+10%)	B/C= 1.3 (事業量-10%)		
			事業期間変動 B/C= 1.0 (事業期間+20%)	B/C= 1.2 (事業期間-20%)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	現在、東西を繋ぐ周辺道路は幅員狭小箇所、線形不良箇所、歩道未整備箇所等多数あり、混雑や事故の発生が問題となっているため、当該路線の整備によりその解消が図られる。 また、東西道路の軸である国道19号と並行することで、機能補完や周辺道路の渋滞解消が図られる。		
		事故対策	○	幹線となる当該道路の整備により、周辺の生活道路との差別化が図られ、周辺道路での事故件数（5件/年）の減少が期待できる。		
		歩行空間	—	注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	○	救急車両の現地までの所要時間が短縮し、より早期に治療が可能。 [中津川茄子川地内→中津川市民病院間の所要時間] 現況 約15分 → 整備後 約11分(4分短縮)		
		地域経済	◎	リニア駅を中心に、濃飛横断自動車道及び東濃東部都市間連絡道路（仮称）が整備され、東濃クロスエリアを位置づけられており、工業・産業地域の新たな企業誘致が期待される。		
		災害	○	本市は岐阜県内で唯一、東海地震に関わる地震防災対策強化地域に指定されているため、災害時の緊急輸送路として利用可能。		
環境		—	注目すべき影響はない。			
	地域社会	○	観光目的の訪日外国人のアクセス性を向上させ、更なる外国人観光客の誘致を期待。 （主な観光名所：馬籠宿、付知峡、苗木城跡、栗きんとんめぐり）			
事業実施環境		○	H27年度予備設計完了 関係地元区長へ計画説明（H28.2.24、H28.2.25）			

採択の理由

事業主体である中津川市が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.1と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。  
また、交通渋滞の緩和、交通事故の削減、地域経済発展が図られるなど、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。  
以上により、本事業を平成28年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。